

# 令和元年度 学校評価アンケート集計結果 考察

【教職員】 回収率 100%

<たいへんそう思う(1)とややそう思う(2)をマークしたものが80%を超えている項目>

・33項目中 15項目(90%以上のもの 7項目)

- 1 「生徒理解や問題行動・不応発生時の初期対応」・・・90%
- 2 「いじめや問題行動の早期発見」・・・94%
- 9 「生徒理解に努める」・・・90%
- 10 「意欲, 理解について生徒の実態把握に努める」・・・93%
- 11 「ノート指導やワークシートの活用」・・・93%
- 12 「授業態度を指導」・・・96%
- 22 「授業前の黙想」・・・93%

<50%未満の項目>

・33項目中 2項目

- 28 「地域行事への参加の促し」・・・43%
- 29 「小学校との交流」・・・47%

・たいへんそう思う(1)とややそう思う(2)をマークしたものが80%を超えている項目は、33項目中15項目であった。半分以上の項目になるよう、さらに増やしていけるように努力していきたい。

・90%以上のものは7項目で、逆に50%未満の項目は2項目であった。  
90%以上の項目をみると、いじめや問題行動など生徒指導的内容には生徒理解に努め、早期に対応できていることが伺える。50%未満の項目は、地域や小学校との連携のことであり、今後の学校教育にとって重要な内容であることから教職員の意識の改革が必要と思われる。

・進路をはじめとするキャリア教育や特別の教科としての道徳の授業展開。習熟度の低い生徒への学習対応やICTを積極的に取り入れた授業。部活動ガイドラインに沿った有効な部活指導など課題は少なくない。より良い教育課程を計画・実行するために、さらなる検討や取り組みが必要と思われる。

【生徒】 回収率 95.7%

＜たいへんそう思う（１）とややそう思う（２）をマークしたものが80%を超えている項目＞

・42項目中 35項目（90%以上のもの 21項目）

3	「給食の配膳・後片付けに協力的」	93%
4	「給食はおいしい」	95%
6	「教室は掲示物が整っている」	93%
8	「生徒会や委員会活動・係活動に積極的」	91%
9	「学校行事に積極的」	94%
10	「授業に先生の指示、説明を聴き意欲的」	95%（昨年91%）
11	「ノート整理やワークの活用を行う」	91%
12	「先生は落ち着いた授業になるようにしている」	90%
13	「先生の指示や説明、板書はわかりやすい」	94%（昨年77%）
18	「宿題や課題を家で行い提出している」	90%
20	「道徳で命の大切さや思いやり、社会のルールを学ぶ」	92%
22	「総合学習で体験的な学習や調べ学習に意欲的」	90%
23	「校外学習は楽しく充実している」	91%
25	「清掃にまじめに取り組む」	92%（昨年93%）
26	「挨拶がしっかりできている」	91%
27	「黙想をきちんと行う」	95%
28	「名前が呼ばれたらきちんと返事ができる」	93%
30	「頭髪や服装、身だしなみを整えている」	94%
31	「学校の施設やものを大切にしている」	96%
33	「自転車の乗り方や交通安全に気を付けている」	91%
34	「人の嫌がることをしていない」（LINEなど含）	94%

＜50%未満の項目＞

・42項目中 0項目

・80%を超えている項目は、42項目中35項目のうち90%以上のものは21項目であった。全体的に自己評価が高い傾向であるが、「学校生活は楽しい」は89%で、昨年と同様な質問「楽しい学校生活を送っている」85%を4ポイント上回った。

・50%未満の項目はなかったが、「部活動での自分の取り組みを認めてくれる先生がいる」69%、「先生は誰でも同じように注意している」61%と数値が低く、日頃の生徒への指導や関わりの中で、徐々に生徒からの信頼感を得ることが重要だと考えられる。また、「先生はいじめに対してきちんと指導し解消してくれる」は70%で、昨年の「三中は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という同様な質問と比較すると8ポイント下降してまった。生徒と強い信頼感を構築するためにも、生徒と向き合う時間を大切に、生徒とともに伸びる教師をめざしたい。

・清掃活動については高い数値が示されており、三中の伝統となる清掃活動としたい。

【保護者】 回収率 93.3%

< たいへんそう思う (1) とややそう思う (2) をマークしたものが80%を超えている項目 >

・ 30項目中 5項目 (90%以上のもの 2項目)

- 8 「学校行事はお子様にとって有意義」・・・・・・・・・・ 94%
- 20 「お子様は頭髪・服装等の決まりを守っている」・・・・・・・・ 91%

< 50%未満の項目 >

・ 30項目中 3項目

- 7 「授業の前に黙想の時間があることを知っている」・・・・・・・・ 30%
- 10 「お子様は授業をわかりやすいと言っている」・・・・・・・・ 46%
- 12 「お子様の宿題や提出物を確認している」・・・・・・・・ 33%
- 14 「お子様は家庭で読書をしている」・・・・・・・・ 27%

< 昨年度の類似した質問で下降した項目 >

- ・ 「部活動が積極的に行われている」・・・・・・・・ 71% (昨年80%)
- ・ 「旅行的行事や体育祭・合唱コンクール  
輝秋祭などの行事は有意義と感じている」・・・・・・・・ 94% (昨年95%)
- ・ 「授業がわかりやすいと言っている」・・・・・・・・ 46% (昨年50%)
- ・ 「授業の予習・復習や宿題, 自主学習など家庭学習を行っている」・・・・ 60% (昨年69%)

・ 80%を超えている項目は, 30項目中5項目のうち90%以上のものは2項目しかなかった。学校行事については, 生徒も肯定的な回答だったが保護者も94%が有意義と感じており, 学校の行事への取り組みを評価していただいている。

「明るく楽しく学校生活を送っている」の質問に対しては88%の肯定的な回答だが, 「あまり思わない 思わない」の回答が11%あることにも注目し, 今後の学校教育を考えていきたい。

・ 50%未満の項目は4項目であった。「授業の前の黙想の時間」を知っている保護者が30%しかいないことに驚きを隠せない。生徒の回答では95%の生徒が黙想に対してきちんと行っていると回答している。また, 「宿題や提出物を確認している」が33%とやはり低い数値であり, 家庭での子どもとの関わりに希薄さが感じられてしまう。

千葉県は「読書立県ちば」として読書を推奨しているが, 「家庭で読書をしている」の回答は27%ととても低い。学校として読書への取り組みに工夫が必要であり, 開智学習の時間を有効利用するなど, 早急に取り組まなければならないと思われる。

## <考察>

- ① 「学校や学級の雰囲気がよく、学校生活は楽しい」という質問に対して、肯定的な回答が89%に達している。しかし「あまり思わない、思わない」という生徒が10%いることにも注目し、すべての生徒に目を向けていく必要がある。
- ② 「悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生がいる」、「自分のことをよく理解してくれる先生がいる」、「部活動での自分の取り組みを認めてくれる先生がいる」、「先生は誰でも同じように注意している」の各質問に対して、肯定的な回答は72%から61%にとどまる。生徒の内面的な気持ちを理解するためには、生徒と強い信頼関係が大切である。そのためにも生徒と向き合う時間を大切にし、生徒と共に伸びる教師をめざしたい。
- ③ 「先生の指示や説明、板書はわかりやすい」、「先生は理解できないところをていねいに教えてくれる」、「先生は授業について様々な工夫をしている」、「道徳の授業で命の大切さや思いやり、社会のルールを学んでいる」という授業に対する各質問には、94%から88%の肯定的な回答を得ている。本校では、学期末に全教科の「授業評価アンケート」を実施し、各教科でそれを授業改善にいかしている。今後も積極的にICTを利用した「わかりやすい魅力ある授業づくり」をめざして、教材研究や研修に努め、生徒の学ぶ意欲や学力の向上を図っていききたい。一方で、保護者アンケートを見ると「お子様は授業をわかりやすいと言っている」という質問に対して、肯定的な回答は46%にとどまる。保護者の期待や要求がもっと高いところにあることに留意する必要がある。また、授業での学んだことを定着させるためにも「家庭学習の習慣づくり」に取り組む必要がある。
- ④ 「先生はいじめに対してきちんと指導し、解消してくれる」という質問に対しては、70%の肯定的な回答だが一方で13%以上が「あまり思わない、思わない」と答えている。「いじめはどこの学校にもおこりうるもの」という認識を持ち、いじめを起こさせない学校や学級の土壌づくり、また、いじめの早期発見・早期解決にさらに努めていききたい。また、様々な関係機関との連携を進める必要がある。
- ⑤ 「部活動」については、81%の生徒が「熱心に取り組んでいる」という回答をしている。好きなことに仲間とともに打ち込む楽しさ、得意な分野で認められる喜び、協調性や社会性が育まれる、など、中学校生活において部活動の教育的意義は大きい。部活動の在り方が話題となっているが、生徒にも教職員にも負担過重にならない柏市部活動ガイドライン沿ったより教育的な効果の高い部活動運営を進めていききたい。
- ⑥ 「学校行事」については、生徒、保護者の両方から「積極的に取り組んでいる」「有意義である」という90%を超える肯定的な回答を多くいただいている。一つのことをみんなでやり遂げるという経験は学校ならではの事だと考える。授業時数の確保との両立を図りながら、今後も感動をわかち合える体育祭や合唱コンクールなどの行事を生徒とともに創り上げていききたい。